

## 6. 排ガスの自主規制基準に係る 経済性の比較・検討



## 6. 排ガスの自主規制基準に係る経済性の比較・検討

排ガスの排出基準と経済性はトレードオフの関係にあり、排出基準が厳しいほど、排ガス処理設備の高度化や薬剤使用量の増加により、建設・運営管理コストが増大するため、経済性も考慮して自主規制基準を設定する必要がある。

そのため、民間事業者(プラントメーカー)の技術提案・見積等に基づき、新ごみ処理施設の自主規制基準として、「既存施設の自主規制基準」を踏襲する場合と「全国の施設(全連続運転式ストローク焼却炉)の設定事例を考慮した設定値」を採用する場合の経済性(建設・運営管理コストの差異)を比較・検討した。

表 6.1 に自主規制基準の設定による建設・運営管理コストの差異を示す。

「既存施設の自主規制基準」を踏襲する場合は、「全国の施設(全連続運転式ストローク焼却炉)の設定事例を考慮した設定値」を採用する場合と比較して、建設費は 3 億円程度、維持管理費は 3 億円程度高くなると想定される。

表 6.1 自主規制基準の設定による建設・運営管理コストの差異

項目		既存施設の自主規制基準	全国の施設の設定事例を考慮した設定値
自主規制基準	ばいじん	0.01g/m <sup>3</sup> N	0.01g/m <sup>3</sup> N
	硫黄酸化物(SO <sub>x</sub> )	10ppm	40ppm
	塩化水素(HCl)	30mg/m <sup>3</sup> N (≒18.5ppm)	50ppm
	窒素酸化物(NO <sub>x</sub> )	50ppm	80ppm
	ダイオキシン類	0.01ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	0.01ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
	水銀	30μg/m <sup>3</sup> N	30μg/m <sup>3</sup> N
建設費 <sup>※</sup>		7,000 百万円	6,700 百万円
運営管理費 (20年間分) <sup>※</sup>	人件費	2,741 百万円	2,741 百万円
	用役費	1,972 百万円	1,757 百万円
	検査点検費	683 百万円	683 百万円
	補修費	3,069 百万円	2,962 百万円
	合計	8,465 百万円	8,143 百万円
備考		「既存施設の自主規制基準」を踏襲する場合は、「全国の施設の設定事例を考慮した設定値」を採用する場合と比較して、建設費は排ガス処理設備の高度化(触媒反応塔の設置等)とそれに伴う建屋の拡大が必要となるため、+3 億円、維持管理費は誘引ファンの容量が大きくなり、電気代が増大するほか、薬剤の過剰噴霧により薬剤費が増大するため、+3 億円と設定	

※ 新ごみ処理施設の建設事業・運営管理事業の事業方式として DBO 方式を採用した場合の費用

